

短大生の生活状況における行為・思考について

加藤 恵子

Junior College Students' Conduct and Thinking on Living Conditions

Keiko KATOU

緒 言

短期大学学生の誕生した時、すでに家庭にはカラーテレビが普及し視覚を通してリアルタイムで情報が得られ、電気洗濯機、電気冷蔵庫、電気掃除機などの出現で洗濯、掃除、食・衣・住に伴う家事労働は軽減した。そうした多くの“モノ”に囲まれ豊かな生活状況を示している対象の学生達は日々の生活でどのようにヒトとヒト、ヒトとモノ、ヒトとココロの関わりを、家庭生活を中心として持っているか、どのように考え行動しているか、意識と実態調査を行い、今後の指導に役立てることを目的とした。

調 査 方 法

調査期間：1993年7月1日～8日

調査対象者：本学短期大学部学生1年生

調査枚数：205部配付 有効回答率97.5% 200部 自己記入

調査内容：家族関係の意識・生活に対する考え方で13項目について意識調査、個人の所有物、アルバイト、家事労働の参加、本・新聞の購読、きょうだい関係で合計29項目の実態調査を行った。(資料1参照)

結果および考察

1) 基本属性

表1に示すように家族構成は最も多く67%ついで直系家族27.5%で今日の家族形態を示している。居住地をみると愛知県内が最も多く42%、名古屋市が32%、岐阜県13%の順にみられ、本学の出身地別データと同じ順位を示している。きょうだい関係をみるとひとりっ子は5.5%、2人きょうだい59%、そのうち最も多いのは姉と本人が21%、ついで兄と本人の15.5%である。3人きょうだいの組み合わせは12組みの組み合わせができるが、本人が第1子か第2子か順位でみると、最も多いのは第3子で11%ついで第2子10.5%である。

2) 家庭の視点

家庭は家族員をメンバーとして衣・食・住を調整するだけでなく、精神的、情緒的に育み、

育てていく場である。表2に示した項目は家庭をどのよに捕らえているか5段階でみた。

「そう思う」を1点「どちらかといえばそう思う」を2点「どちらともいえない」を3点「どちらかといえばそう思わない」を4点「そう思わない」を5点として配点し、平均値と標準偏差を算出した。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を集計すると〔日常生活で必要なところ〕と認識しているのは93.5%と最も多くついで〔心の安らぎ得るところ〕89.5%である。〔家庭は子を産み育てるところ〕73.0%と約7割が肯定している。しかし〔親の世話をするとところ〕は36.0%で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が各9.5%と他の項目に比べ否定的な意識に高い割合を示している。上記3項目に比べ〔親の世話をするとところ〕の項目にばらつきが見られたのは(1)調査者の年齢が若い(2)親は40代後半から50代前半で若く親を世話するという意識を持っていない(3)親自身が子に世話をかけていないなどの結果と推察する。

3) 父母の関係

日常父と母との家庭での意識を表3で示した。「そう思う」は〔母親が家庭にいると安心する〕63.0%〔父親が家庭にいると安心する〕は約半分の35.0%に減少する。〔お父さんは達者で外がよい〕は上記より更に少なく15.5%である。父親が外がよいと否定的な「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を加えると28.5%と高い割合を示している。

父親に比べ母親が家庭にいると安心する割合が高いが、父親が一概に外がよいとは、思っ

表1 基本属性

		単位=%
家族構成	核 家 族	67.0
	直 系 家 族	27.5
	傍 系 家 族	2.5
	そ の 他	0.5
居住地	無 記 入	0.5
	愛 知 県	42.0
	名 古 屋 市 内	32.0
	岐 阜 県 内	13.0
	三 重 県 内	9.5
	静 岡 県 内	1.0
きょうだい関係	そ の 他	2.5
	本 人 の み	5.5
	二 人 きょうだい	
	姉+本人	21.0
	本人+妹	13.0
	兄+本人	15.5
	本人+弟	9.5
	三 人 きょうだい	
	本+妹+妹	9.0
	人+弟+弟	
	姉+本+妹	10.5
	兄+人+弟	
姉+姉+本	11.0	
兄+兄+人		
そ の 他	5.0	

表2 家庭の視点

(Nの数) % N=200

項 目	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	平 均	S D
家庭は心の安らぎを得る処	(119)59.5	(60)30.0	(17) 8.5	(2) 1.0	(2) 1.0	1.54	0.776
家庭は子供を産み育てる処	(59)28.0	(90)45.0	(45)22.5	(5) 2.5	(4) 2.0	1.92	0.856
家庭は日常生活に必要な処	(151)75.5	(36)18.0	(12) 6.0	(1) 0.5	(0) 0	1.31	0.606
家庭は親の世話をすると	(22)11.0	(50)25.0	(90)45.0	(19) 9.5	(19) 9.5	2.81	1.066

表3. 父母との関係

(Nの数) % N=200

項 目	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わな い	平 均	S D
母親が家庭にいると安心する	(126)63.0	(42)21.0	(26)13.0	(4) 2.0	(2) 1.0	1.51	0.833
父親が家庭にいると安心する	(70)35.0	(65)33.5	(40)20.0	(11) 5.5	(12) 6.0	2.14	1.139
お父さんは達者で外がよい	(31)15.5	(46)23.0	(66)33.0	(28)14.0	(29)14.5	2.89	1.251

いない。それは、会社中心の生活、過労死等社会問題視されている現在、父親にこころをくばっている様子が伺われ、父親に関してはばらつきがみられた。

4) 他者との比較

〔人より〕と比較しての間であるため、比較の対象者の行為が自己より低くければ、自己は高くでる、またその反対がいえるが、どのように思っているかを表4で示した。〔人より勉強していると思う〕「そう思う」「どちらかといえばそう思う」6%「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」54.0%で勉強しているという態度が欠けているのではないのか、現在短大のレジャーランド化、ファッション化傾向が本学でもみられるように思う。〔人より本を読んでいると思う〕は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」11.0%ある。〔人より家事をしていると思う〕は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」34.0%で上記2項目より高い割合を示している。その実態をみると1年以内に本を読んだ人は83.5%である。本のジャンル別を表5に示した。最も上位は日本文学52.5%、日本推理47.3%、外国推理28.7%の順で平均3.4種ある。

表4 他者との関係

(Nの数) %

N=200

項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	平均	SD
人より勉強していると思う	(2) 1.0	(10) 5.0	(80) 40.0	(64) 32.0	(44) 22.0	3.69	0.904
人より本を読んでいると思う	(7) 3.5	(15) 7.5	(59) 29.5	(54) 27.0	(65) 32.5	3.77	1.091
人より家事をしていると思う	(20) 10.0	(48) 24.0	(57) 28.5	(42) 21.0	(33) 16.5	3.10	1.228

表5 一年以内に読書したジャンル別 (複数回答)

項目	人数	%
日本文学	87	52.1
日本推理	79	47.3
外国推理	48	28.7
心理学	45	26.9
随筆	44	26.3
外国文学	44	26.3
人生論	37	22.1
健康	33	19.7
伝記	32	19.2
人間関係	32	19.2
日本古典	24	14.4
国内旅行記	18	10.8
外国旅行記	17	10.2
哲学・思想	9	5.4
社会問題	7	4.2
教育	5	3.0
宗教	4	2.4
歴史・地理	2	1.2
法律	2	1.2
政治	2	1.2
平均	3.3種	

表6 新聞の通読欄 (複数回答)

4 N=196

項目	人数	%
テレビ・ラジオ	188	95.9
スポーツ	100	51.0
事故	88	44.9
生活	74	37.7
各種広告	66	33.7
政治	35	17.8
相談コーナー	29	14.8
死亡	25	12.8
経済	18	9.2
読書	13	6.6
園芸	7	3.6
株式	5	2.6
宗教	4	2.0
平均	3.3種	

日常の情報は新聞、テレビ、ラジオからあげられるが、新聞についてみると、〔毎日読む〕32.5%〔読んだり、読まなかったりする〕47.5%〔殆ど読まない〕18.0%〔読まない〕2.0%である。新聞の内容欄について表6に示した、最も読む欄は〔テレビ・ラジオ〕95.9%〔スポーツ〕51.0%〔事故〕44.9%などの身近な関心を情報として収集している。個人の興味・関心欄は個々ばらつきがみられる。月刊誌を定期講読しているのは25.5%で、活字を読む割合が低下しているように思う。

家事労働を12項目をあげ、複数回答を得た結果表7に示した。最も高いのは〔食後のかたづけ〕58.3%〔夕食の準備〕44.3%〔洗濯物のかたづけ〕40.5%等である。〔庭の掃除〕4.3%〔高齢者の介護〕3.8%は全ての家庭が対象とはならないためやや数値を引き下げている面がある。7.5%は無記入であったことから家事労働の参加・協同意識が欠如しているように思われる。

表7 家事労働の参加 (複数回答)

N=185		
項 目	人数	%
食事のかたづけ	108	58.3
夕食の準備	82	44.3
洗濯物のかたづけ	75	40.5
部屋(全体)の掃除	65	35.1
風呂場の掃除	57	30.8
日用品の購入	50	27.0
家族の洗濯	26	14.0
朝食の準備	23	12.0
御手洗いの掃除	15	8.1
庭の掃除	8	4.3
高齢者の介護	7	3.8
平 均	2.8種	

表8 豊かさについて

(Nの数) %

N=200

項 目	そう思う	どちらかといえそう思う	どちらともいえない	どちらかといえそう思わない	そう思わない	平 均	S D
心の豊かさが大切と思う	(153)76.5	(31)15.5	(15) 7.5	(1) 0.5	(0) 0.0	1.32	0.632
物の豊かさが大切と思う	(38)19.0	(84)42.0	(64) 2.0	(8) 4.0	(6) 3.0	2.30	0.924
物の豊かさより心の豊かさが大切と思う	(95)47.5	(52)26.0	(45) 2.5	(6) 3.0	(2) 1.0	1.84	0.943

5) 豊かさについて

物の豊富な生活を享受している調査者に物と心の豊かさを表8について示した。「そう思う」をみると〔心の豊かさが大切〕76.5%に対して〔物の豊かさが大切〕19.0%である。そこで〔物の豊かさより心の豊かさが大切〕47.5%で上位2項目の中間数値を示し心の豊かさを重視しながらも、物の豊かさも生活していく中では必要性を感じている。

自己の物の所有率を表9で示した。最も高いのは〔自転車〕87.0%、〔勉強机と椅子〕83.5%〔ラジカセ〕70.0%でこの3点は現代の学生には必需的な物と思われる。1人当たり平均所有率は5.7種である。電話は約4人に1人所有が見られるが、近年多種類の機能をもった電話の普及が著しく、個々専用の電話を持つ時代も近いと思う。

表9 自己所有率 (複数回答)

N=200

項 目	%
自 転 車	87.0
勉 強 机 ・ 椅 子	83.5
ラ ジ カ セ	70.0
冷 房 器 具	60.5
暖 房 器 具	59.5
ス テ レ オ	38.5
ラ ジ オ	31.0
ミ シ ン	30.0
ピ ア ノ	25.0
電 話 器	24.0
楽 器	18.0
カ メ ラ	15.0
ス キ ー 道 具	13.0
V T R	8.5
ワープロ・パソコン	4.0
そ の 他	7.0
平 均	3.9種

家庭での満足度を表10に示した。80%以上満足をしている割合は61.5%、70%まででは73.5%と約4人のうち3人が満足していたが、残りの不満面を自記式でみると、1) 門限が厳しい 2) 友人の家に泊まることを許さない 3) 干渉してくる等のヒトとヒトの相互関係、特に両親との間の乖離がみられた。

生活水準の要因は所得で購買できる商品や社会保障、環境、労働時間、家庭生活、教育等を対象としている。そこで5段階で示した結果、〔上〕1.0%〔中の上〕21.0%〔中の中〕65.5%〔中の下〕11.5%〔下〕1.0%の割合であった。平成4年愛知県消費生活調査結果¹⁾では〔上〕0.5%〔中の上〕11.1%〔中の中〕53.1%〔中の下〕30.4%〔下〕4.9%で〔中の下〕と〔下〕を加えると35.3%本調査は12.5%と低く生活程度は高い割合を示した。

6) 経済について

調査者は被扶養家族員の一員であるが、経済活動をすることによって家庭経済の補填の役割を担うことが出来る年齢に達している。家庭で計画経済の金銭教育の一貫として、どのように「小遣いの受領のしかた」をしているかを表11に示した。〔毎月決まった金額〕36.0%〔小遣いは貰っていない〕32.5%で約3分の1は自己で捻出している。

アルバイトについてみると〔年間通してしている〕63.5%〔春・夏・冬休暇にする〕9.0%〔不定期にしている〕13.5%〔していない〕13.5%無記入0.5%でアルバイトの経験者は86.0%であった。日本私立短期大学協会の調査資料²⁾でも平成3年度は81%、平成2年度80%と同傾向を示している。そこで〔年間通してしている〕人に「一週間」何時間しているかを表12に示した。15時間までが27.5%ついで10時間までと20時間までが各24.4%で、上記時間内で76.3%がしてをり、4人のうち3人が占めている。週平均13.2%時間である。1時間当たり800円として10,560円、月42,240円の収入が見込める。自由になるお金(貯金)の保有額は〔10万円迄〕52.0%〔10~20万円〕22.0%〔20~30万円〕12.5%〔30~40万円〕3.0%〔40~50万円〕3.0%〔50~万円〕1.5%〔75~100万円〕0.5%〔100~150万円〕0.5%〔150~200万円〕1.0%〔持っていない〕4.0%である。

保持しているうち〔使用しない(貯蓄している)〕

表10 満足度

満足度	%
90%以上	31.5
80 %	30.0
70 %	12.0
60 %	7.0
50 %	11.5
40 %	3.5
30 %	2.0
20 %	1.0
10 %	1.0
無回答	0.5
	100.0

表11 小遣いの受領のしかた

項目	人数	%
毎月決まった額	72	36.0
毎月決まっているが不足すると追加有り	22	11.0
額は決まっていない	40	20.0
貰っていない	65	32.5
不明	1	0.5
	200	100.0

表12 アルバイトの時間数
(一週間)

週時間数	人数	%
5時間まで	10	7.9
10 %	31	24.4
15 %	35	27.5
20 %	31	24.4
25 %	18	14.2
25時間以上	2	1.6
	127	100.0

29.0%〔使用する〕67.0%で何に支出しているかをみると〔洋服代〕28.4%、〔食事〕と〔交際〕に各20.8%〔教科書〕11.8%〔旅行費用〕8.7%〔稽古代〕〔CD購入〕各0.2%〔その他〕1.2%の順で、高校生の時は制服で過ごすことができるが、短大生では私服に伴いシーズン毎に各種の洋服を必要とし、服装に関心が高く、衣・食・住に高い支出割合がみられ日常何に支出するかはかなり計画的に行動することを要する。

小遣いの収支の記帳状況を見ると「毎日つけている」17.5%「時々つけている」21.0%「つけたことがあるが今はつけていない」41.5%「つけたことがない」19.0%無記入0.5%である。平成2年の「貯蓄に関する世論調査」(世帯が対象)では〔つけている〕28.2%〔つけたりつけなかったり〕19.4%〔付けていない〕51.1%である。調査者も小遣いだけでなくアルバイトで定期、不定期に収入の途がありツインカムが多く、一方支出も各種のものを自己で購入、お金の貸借などあり記帳している割合が、家計を預かっている調査に比べ高い。

自己名義のクレジットカード保持についてみると〔カードを持っていない〕87.5%のうち、〔将来持とうと思う〕29.0%〔持とうと思わない〕35.5%〔全く思わない〕23.0%であった。〔カードを持っている〕12.5%でそのうち〔1枚〕6.5%〔2枚〕4.5%〔3枚〕1.5%である。現在カードで経済行為を履行するほどでなく、自己名義のカードは必ずしも必要としないことから、保持の割合が低率を示している。しかし“全く持とうと思わない”が約4人に1人みられ、カード社会の中でどう対処していくのか、やや心もとなく、積極的に関心を持って欲しい。

7) きょうだい関係

家庭生活では両親との関係だけでなく、きょうだい相互関係は日常の行為のなかで学習し成長するが、ひとりっ子の場合家族関係は存在しても、きょうだい関係は存在しない。³⁾本調査では94.5%はきょうだい関係が存在している。きょうだいがお互いに「よくする」「時々する」「全くしない」の3段階で調査し、さらに「よくする」「時々する」人にその内容について調査した結果を表13に示した。金銭の貸借は「全くしない」50.3%と半数を占め、「よくする」4.2%でクールな面が伺われる。金額は〔1,000～3,000円〕28.7%〔0～1,000円〕22.4%の順で2人に1人は3,000円迄で少し不足したので借りるという状況が伺える。

“モノ”の共同利用についてみると「よくする」「時々する」86.7%で平均2.4種している。〔洋服〕75.6%〔ハンドバック〕48.2%〔文房具〕40.3%の順で多く男きょうだいの場合共同利用するものは比較的少ないと推察する。

お互いに意見の相違・思考などきょうだいであるがために、喧嘩が生起する「時々する」55.5%「よくする」14.3%両者を加えると69.8%みられた。内容をみると〔考え方〕57.6%ついで〔物の貸借〕であるが上記共同利用する割合も高いためのトラブルの遠因と推察する。また“全く貸借はしない”が30.2%みられた。

同じ家庭の中で理解しあい、類似した価値観をもち暮らし方、互いに長所・短所を認識して過ごしている中で、「両親に話せないことについて」みると「よくする」「時々する」29.6%、その内容は〔恋愛〕53.6%〔悩みごと〕45.5%などのヒトとヒトの問題点が高い割合を示した。平均1.6件である。

生ある限り人は老い、心身共に弱くなり若い力を必要とするが、それが何歳かは個々未知数であるが、長寿であればある程若い力を要する。出生順位や成育環境では早い段階で扶養が問題点になることも考えられるため予測して「両親の扶養の話し合いについて」〔全くしない〕70.4%で他の項目に比べ高い割合である。表2の「親の世話」とも共通する点がみられるが、

表13 きょうだい間の行為・内容

単位=%・個

項 目	内 容						
金 銭 貸 借 %	0～	1,000～	3,000～	5,000～	10,000～	30,000円	
よくする 4.2	1,000円	3,000円	5,000円	10,000円	30,000円	以上	
時々する 45.5	% 22.4	28.7	21.8	2.3	4.2	2.1	
全くしない 50.3							
共 同 利 用 %	洋 服	ハンド・ バック	文房具	アクセ サリー	化粧品		平均
よくする 42.3	% 75.6	48.2	40.3	39.6	2.2		2.4
時々する 44.4							
全くしない 13.2							
きょうだい喧嘩 %	考え方	物の貸借	テレビ視聴	食べ物	金の貸借	その他	平均
よくする 14.3	% 57.6	23.5	15.9	14.3	3.0	25.0	1.4
時々する 55.5							
全くしない 30.2							
両親に話せないこと %	恋 愛	悩みこと	友人関係	お 金	性	その他	平均
の話しあい	% 53.6	45.5	43.6	10.0	4.6	4.6	1.6
よくする 17.9							
時々する 40.2							
全くしない 41.9							
扶 養 に つ い て	よくする	時々する	全くしない				
父母の扶養問題	% 6.9	22.7	70.4				

親自身が若く子に扶養をまだ期待していない、調査者も老いた状態が想像出来ないなどの理由で低率を示したと推察する。

8) 生活設計

1990年に女子の初婚年齢は25.9歳である。そこで25～26歳の時期にどのような生活をしているかを8コースに分け表14に示した。〔独身〕が最も多く27.0%ついで〔結婚して子が1～2人〕39.0%〔結婚している〕31.5%である。職業の有無を見ると〔専業主婦〕39.0%〔共働き

している〕31.5%であった。調査者は上記の初婚年齢よりも若い年齢で結婚を計画している層が多い。しかも共働きを設計の中に入れていたのは約3人に1人みられる。

表14 生活設計 (25～26歳頃)

項 目	人数	%
独 身 で い る	54	27.0
結 婚 し て 専 業 主 婦	29	14.5
結婚して専業主婦で子1人	37	18.5
結婚して専業主婦で子2人	12	6.0
結 婚 し て 共 働	34	17.0
結婚して共働で子1人	22	11.0
結婚して共働で子2人	7	3.5
無 記 入	5	2.5
	200	100.0

要 約

本調査をした結果

1：家庭は〔心の安らぎを得る〕〔子を産み育てる〕ところと「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は7割以上が肯定しているが、〔親の世話をする〕ところと肯定割合は36%で〔どちらかといえばそう思わない〕〔そう思わない〕の否定が19.0%と高い割合を示した。また親の扶養についてきょうだいで全く話し合っていないが70.4%と高率を示した。

2：モノとココロの豊かさを大切に思う「そう思う」割合は〔ココロの豊かさ〕76.5%〔モノの豊かさ〕が19.0%，モノとココロのどちらを大切にすると〔ココロの豊かさ〕を大切に思うが47.5%であった。昨今のココロの豊かさが問われているが，本調査でも同傾向を示した。

3：家庭の満足度を70%以上示しているのは73.5%みられるが，不満の内容は門限が厳しい，友人の家に外泊することを許さないなど“ヒト”と“ヒト”の関係である。

4：金銭についてみるとアルバイトを年間しているのは2人に1人で，週約13時間である。金銭のきょうだい間の貸借は多くは3,000円までである。自己名義のクレジットカードの保持率は12.5%であった。またクレジットカードの保持を〔全く思わない〕23.0%みられた。

今後生涯に視点をすえて，私の授業担当である生活経営学・家族関係学の中で，ヒトとヒト，ヒトとココロの面を指導していくことが課題である。

参 考 文 献

- 1) 愛知県消費生活課：私たちの生活，平成四年版
- 2) 日本私立短期大学協会厚生歩道研究委員会：私立短大生の学生生活に関するアンケート集計結果 P24 平成3年度
- 3) 依田 明 著：きょうだいの研究，P160～164大日本図書

資料1 調査用紙(抜粋)

青年の意識調査

現在多くの「物・サービス」にかこまれ生活していますが、色々の問題点を内包しています。そこで貴方の現状をお聞きして問題点の解明をしたく、下記の質問にご回答下さい。○印又は言葉を記入下さい。

- 1：次の項目について()の中に①～⑤の該当する番号を記入下さい
 ①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
 ④どちらかといえばそう思わない ⑤そう思わない
- 1) 家庭は心の安らぎを得るところ……() 8) 人より勉強しているほうと思う……()
 2) 家庭は子どもを産み育てるところ……() 9) 人より本を読むほうと思う……()
 3) 家庭は親の世話をするところ……() 10) 人より家事(家庭内の仕事)を
 4) 家庭は日常生活で必要なところ……() するほうと思う……()
 5) 母親が家庭にいると安心する……() 11) 心の豊かさが大事と思う……()
 6) 父親が家庭にいると安心する……() 12) 物の豊かさが大事と思う……()
 7) 「お父さんは達者で外がよい」……() 13) 物の豊かさより心の豊かさが大切と思う……()
- 3：新聞の読み方について(1つ)
 A 毎日必ず読む B 読んだり読まなかったりする C ほとんど読まない D 読まない
- 4：新聞はどの欄を読みますか(複数可)
 A 政治 B 経済 C 生活 D 事故 E 宗教 F 読書 G 死亡 H 園芸 I マンガ
 J テレビ・ラジオ欄 K 相談コーナー L 各種広告欄 M 株式欄 N スポーツ欄
- 6：自由になるお金(貯蓄)をもっていますか(1つ)
 A 持っている B 持っていない
- 7：6で『持っている』方、①か②のどちらですか
 ①使用しない ②使用する——使用の多い順に3つ回答
 A 教科書代 B 教材代 C 旅行費用 D 洋服代 E 食事代
 F 化粧品代 G 交際費 H 稽古代 I _____ J _____
- 8：両親からの小遣いはどのようにして貰っていますか(1つ)
 A 毎月決まった額で遣り繰りしている C 額は決まっていない
 B 毎月決まった額を貰うが不足すると追加して貰う D 貰っていない
- 9：小遣いの収支をつけていますか(1つ)
 A 毎日つけている B 時々つけている C つけたことが有るが今はつけていない
 D つけたことがない
- 10：生活水準は世間一般からみて、どの程度だとおもいますか(1つ)
 A 上 B 中の上 C 中の中 D 中の下 E 下
- 11：アルバイトについてお尋ねします(1つ)
 A 年間を通してしている B 夏・冬・春休暇にしている C 不定期でしている D していない
- 12：11でAの方は「1週間」何時間していますか(1つ)
 A 5時間迄 B 5時間～10時間迄 D 10～15時間迄
 D 15時間～20時間迄 E 20時間～25時間迄 F その他_____
- 13：クレジットカードの自己名義を持っていますか(A又はBで1つ)
 A 持っていない……A 将来持とうと思う B 持とうと思わない C 全く関心がない

- B持っている …… A 1枚 B 2枚 C 3枚 D 4枚
- 15～23までは『2人以上のきょうだいがいる』方は回答してください
- 15：きょうだいで、共通に使えるものは利用しますか (1つ)
- A よくする B 時々する C 全くしない
- 16：12で『よくする』『時々する』方は何を利用していますか (複数可)
- A 洋服 B ハンドバック C アクセサリー D 靴 E 文房具 F 化粧品
- 17：きょうだいで、お金の貸し借りをしますか (1つ)
- A よくする B 時々する C 全くしない
- 18：17で『よくする』『時々する』方はどれくらいですか (1つ)
- A 千円以上～千円未満 B 千円以上～三千元未満 C 三千元以上～五千元未満
D 五千元以上～一万円未満 E 一万円以上～三万円未満 F 三万円以上
- 19：きょうだい喧嘩はしますか (1つ)
- A よくする B 時々する C 全くしない
- 20：19で『よくする』『時々する』方は何が原因ですか (複数可)
- A 物の貸し借り B お金の貸し借り C 食べ物 D テレビ番組 E 考え方の相違 F その他
- 21：両親に話せない事もきょうだいには話しますか (1つ)
- A よくする B 時々する C 全くしない
- 22：21で『よくする』『時々する』方はどのような内容ですか (複数可)
- A 友人関係 B 恋愛 C お金 D 性 E 悩みごと F その他 ()
- 23：きょうだいで父母の扶養について話しますか (1つ)
- A よくする B 時々する C 全くしない
- 24：25～26歳の時どのような生活をしていると思いますか (1つ)
- A 独身でいる B 結婚して専業主婦でいる
C 結婚して専業主婦で子1人いる D 結婚して専業主婦で子2人いる
E 結婚して共働きしている F 結婚して共働きで子1人いる
G 結婚して共働きで子2人いる H その他_____
- 25：きょうだい関係はどのようですか (例：A 姉・B 兄・C 私)
- A _____ B _____ C _____ D _____
- 26：家族構成はどれですか (1つ)
- A 核家族 B 直系家族 (拡大) C 傍系家族 (拡大) D その他
- 28：住所地を県・市まで記入してください
- _____ 県 _____ 市
- 29：家庭生活の満足度は何%ですか (数字)
- A _____ %
- 30：29の残りの%はなにを指していますか
- その内容を書いて下さい

有り難うございました。